

つくしの家だより

HP アドレス <http://ichiyokai.sakura.ne.jp/>

No. 111 2023. 12. 1

〒421-0522
静岡県牧之原市相良 240-1
(児童発達支援・放課後等
デイサービス)
つくしの家
(生活介護事業所)
つくしホーム
☎ 0548-52-2225
事務局 52-0825
FAX 52-1156
e-mail:tsukushihome@
aioros.ocn.ne.jp

まなぎしの先に...

栗林 均

「子育ては、結果の見えにくい仕事です。そしてその答えはずっと先にあります」と言われます。子ども達との日々、つい目の前のことに追われがちなのですが、これまで歩いてきた道のどこかで聞いて感じたことば、出逢ったいくつかの風景が時々ふっと思い出されてきます。

— 子どもが 振り返る時 —

以前、健診後の親子教室でこんなことがありました。そのお子さんはもう何度かその教室に来てくれたのですが、お母さんのひざからな



かなか出ることができませんでした。朝の集まりでお名前を呼んで名札を取りに来るのですが、お母さんにしがみついでしまつて名札に手を伸ばすこともできません。音楽に合わせ進行する時もお母さんに抱っこされたままでした。この子の笑顔が見たいな...、と思つて「おいで」と呼びかけたり、おもちゃを「どうぞ」つて渡そうとすると、よけいにお母さんにくついでしてしまいます。ある日、活動が終わつておやつの時間にお母さんとお話をしました。他のお友達はおやつを食べ終わると、みんなのまわりを走つたり、おもちゃで遊んでいませう。その子は今日もずっとお母さんにくついでしてしまつてお話をしながらお母さんの目には涙が浮かんでいました。— その時、

近くにあつたデジタル式の体重計に、一人の男の子が乗りにきました。上に乗つて足をバタバタして遊んでいました。お母さんにくついでしていたその子もそれに興味があるようです。男の子が体重計から離れると、そろそろお母さんのひざか

ら2、3歩出て行つたのです。でも他のお友達が近くに來るとすぐに戻つてきました。少しして、また出て行つて...、何度かそれを繰り返した後、やっと体重計まで行き片足を乗せようとしました。私はその時、お母さんにごう言いました。「お母さん、今きつとこつちを振り返りますよ」その子は、体重計に片足を乗せた瞬間、お母さんを振り返りました。お母さんはきよとんとした表情をしました。私は、振り返つたその子に向かつてパチパチつて拍手しました。その子は、お母さんのところにすぐ戻つて來ました。「もう一回、どうぞ！」つて言うと、もう一回体重計へ、そして振り返ります。またパチパチつて拍手。そしてお母さんのところに戻ります。何度かその遊びが続いた頃、その子が私のところに戻つて來たのです。その子の両手を持つてブラブラつてすると、にこつて笑つてくれました。そして「もう一回、どうぞ！」、初めてこの場所でお母さんから離れて遊べたその姿に、お母さんもびつくりされていました。おやつ後のわずかな時間でしたが、何だかとてもうれしい風景でした。それから数回後の教室の朝、声をかけると小さな声で「おはよう」つて声が聞こえてきました。お名前を呼ばれるとハイイつて手が上がるようになつて、お母さんのひざから司会の先生の差し出す名札に向かつて一人でゆつくり歩いて取りに來れるようになりました。サーキットの順番の中にもお母さんと手をつないで並んでいるようにもなりました。

「もつといっぱい遊びたいな」と思っていたのですが、急に他県に引越すことになりました。最後の教室に来てくれた時、お母さんからこんな言葉をいただきました。「一番つらい時に、話を聞いていただいてあげてくださいました。これからも元気でがんばります。」…、お母さんが、何だかとても頼もしく見えました。



子ども達は、まだ不安を持ちながらも、興味のあるものを見つけた時、触ってみたい時、でもどうしていいのか判断ができない時に、その瞬間、必ずお母さんを振り返ると言われます。その時に、いつも自分を見てくれている視線が待っていて、どうしたらいいのかの答えを返してくれると信じて振り返ると言われます。元氣にお友達を追いかけて走って行く、自分からどんどん遊びに入っていく、そんな姿は願いかもされません。

が、きつときつと今は精いっぱい、でもそれで十分…、こんな遊びのひとときが大好きです。子ども達との日々の中で、時々ふっと思い出す風景です。

— 思いを伝える時 —

以前、新聞に土方さんという方が投稿された文章が載っていました。『先日、中学1年の息子の運動会がありました。小学校までは私も周りの目を気にせず、息子に向かって大きな声援を送っていました。さすがに息子も恥ずかしいだろうと思いついて今年はずっと見守っていました。息子の出番が終わり、一声かけようかなと思いましたが、しかしこんなところで母親が出て行って、息子が周りの目を気にしたらかわいそうかなと思いついて、そのまま私は帰りました。息子が帰宅し「暑い中、よく頑張っていたね」と声をかけると、息子は応援団で大きな声を出していたので、すっかり声がかれてしまっていました。『お母さん、いつ帰ったの？おれ、リレーが終わった後、お母さんに会いに行つたんだ。いなかっただから、そこらじゅうを探したんだよ。お母さんにどうだった？』って聞きたかったんだよ』とかすれた声で言いました。その言葉を聞いて私は涙が出そうになりました。難しい年ごろだから家で声をかけた方がいいだろうと、私が勝手に思い込んでいたのです。でも息子はその場で私に声をかけてほしかったのです。思春期だからとか、難しい年ごろだからとか、変に遠慮せずに、今このタイム

ングで息子に伝えたいことを伝えようと思えました。それができるのが親だから。』…、こんな文章でした。

— まなざしの先に —

つくしの家では、毎日通う子ども達と、火曜日と木曜日の午前中に親子で通ってくる教室を開いています。以前、その教室に通っていた子のお母さんがこんなことをお話しして下さいました。つくしの家のホールはワンフロアになっていきますので、教室に来ていても、毎日通っている子ども達の様子がいっつも見えます。『週一回、教室に来た時に、いつも〇〇くんのことになって見えていたのですが、変わりましたね』と言うのですが、そのお母さんは「前は、自分の思いどおりにならなかつたりすると、大っきな声で泣いてしまっていたのに、この頃は少し困っているような時、みんなの前に出てやり終えた時、何かを頼みたい時、その子の視線の先を追うと、必ずそこに担当の先生がいるんですね。」と…。大人と子ども、先生と子ども、指導とか訓練とかの前に、大切なことがきつとあるだろうことを信じての歩み…。お母さんのお話を聞きながら、ある先生が話して下さった言葉が浮かんできました。『生きるってすばらしいよ。命ってこんなに大切だよ。本当のことは目に見えないから心の目で見てごらん。大好きなことが大切なんだよ。子ども達が気づかせてくれることは、いつもやさしくて、そして人として生きていくときに大切なことばかりなんだよ。』

…と。子どもの詩集の中に、こんな詩がありました。紹介させていただきます。

お母さん

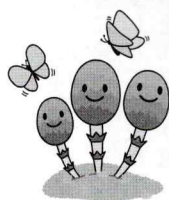
お母さんはいま、
光太のおちちを、やっています。
お母さんは、わたしを見て、
光太に、おちちを、
のませています。

お母さんは、
おねえちゃんのを、ほうを見て、
光太におちちを、のませています。
おねえちゃんのを、かん字を見て、
お母さんは、わらっています。

新しいお友達を迎えてスタートした春、暑かった夏、残暑から急にやってきましたような秋、そして冬へと季節を歩いて来ました。今、目の前にいる子ども達も一人ひとり、きつといろいろな思いを持ちながら日々を重ねてきたのでしょう。私たちはその時々、子ども達の心に、小さな瞳にどんなまなざしをおくり、返してあげられたのでしょうか…、一年の終わりに、ふとそんなことを思い出した。

街のあちこちに色とりどりのイルミネーションが灯りはじめました。今年もあたたかなクリスマスが迎えられるように…。

(二羊会理事長・つくしの家園長)



認め合う心 増田 隆

葉がすっかり落ちた木々の枝が北風に揺れ、寒さに震えているようです。日を追うごとに長く伸びる影が、冬の訪れを感じさせてくれます。

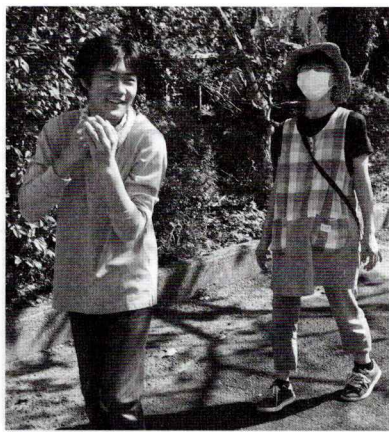
夏から今まで、つくしホームでは感染症の大きな流行もなく、利用者さんたちは元気に過ごしています。世喜子さんが六月に白内障の手術・入院でしばらくお休みしましたが、ご家族の看護や、かかりつけの病院での診察を受けながら、経過も順調で安心しています。全体では、外出等の行事も様子を見ながら増やしています。少しずつ範囲を広げながら、いろんな体験・経験が出来るようになったらいいなと思っています。

つくしホームでは、定期的に利用している方以外に、特別支援学校の実習生も受け入れをしています。今年度は高等部三年生三名が実習しました。そのうち二名がつくしの家を卒業した生徒です。朝来た時に思わずつくしの家に向かって歩き出してしまう、なんてこともありましたが、何度か実習を繰り返すうちに、少しずつ慣れてきて、徐々に表情がほぐれてくるのを見ると、改めて今つくしホームを利用してくれている人達が実習生だった頃や入園してきた頃を思い出します。

〇〇さんは初めてここに来たのに、面談の途中でいきなり製作活動に加わって、みんなと笑いながら絵を描いていたな、□□さんは、実習の時から期間中必ず外出や食事会の行事があったな；いろんな事を思い起こします。中には、それまで在籍していた場所の人に付き添われ、表情が硬く、自信なさそうに来た人たちもいました。そんな時、ある言葉が気になりました。「すみません、つくしホームしかお願いできないので；」、「(不得手な面を言った後に)宜しくお願いします。すみません」というように、会話の初めや終わり、そして面談の際に何度も「すみません」という言葉を耳にしました。すがるような思いで来てくれたのかもしれないが、そんな付き添いの人達の間、本人に伝わるような表情が、本人に伝わっているかのように思える時もありました。今までは違う新しい場所や環境に踏み出すのですから、本来は前向きな気持ちになれる事が望ましいと思いますが、そういうことが度々ありました。地域によって差はありますが、学校を卒業する時や家庭や他の場所からつくしホームのような事業所を利用したいと思っても、希望者に比べて事業所の数が足りず、なかなか利用することができない状況が続く事もあります。そんな時代背景も手伝ってか、その言葉

をたくさん聞いた気がします。ご本人は何が好きなのですか？どんな事をすれば楽しめますか？どんな時に安心できますか？と聞いただけでも「すみません」と付け加えてから答えてくれた保護者の方もいました。様々な理由で生まれる不安な気持ち、ついこの言葉を言わせてしまったのでしよう。今ではだいぶこの言葉を聞くことは減りましたが、特に保護者の方々は、ご本人が幼少の頃から折に触れ、口癖のようになっていく方が多かったですように思います。漠然とした不安や何か後ろめたい思いがあったのかも知れませんが、これは保護者の方々が思わず口に出してしまうような社会的な背景があったことも事実です。今では障害に関する理解も深まり、価値観も多様化して、ひとりひとりが尊重される時代になりましたが、それでもまだ十分とは言えない気がします。

私たち職員も、散歩や外出した際



に進路を譲っていたりした時に、つい「すみません」と口にしてしまう事がありました。そんな時には「ありがとうございます」という言葉を使うべきだとも思います。また、もし違う場所に利用者さんを送り出すのであれば、その人の良いところ、がんばるところをたくさんお話しして、こんな素敵な人です、と言って送り出す事が出来ればいいな、と思います。そして、これまでつくしホームに入園してきた人たちは、みんな生き生きと過ごしています。これまで、ここから新しい場所に移って行った方々が何人もいます。ただでさえ見知らぬ場所に行く事は不安な事ですから、これからその方が安心して過ごす事が出来るように、行く先の事業所の方には、出来る限りつくしホームでの様子や気をつけていただきたいと思います。そして、どんなお伝えしてきました。そしてどんな時も必ず「〇〇さんはこんなにつくしホームで輝いていました。私たちは、どんなところでも胸を張って送り出す事が出来ます。どうかよろしくお願い致します。」と伝え、最後に「ありがとうございます」という言葉を加えます。

障害があってもなくてもお互いの存在を認め合いながら、安心して暮らしてゆける社会であって欲しいと願います。(つくしホーム施設長)

この夏に来て下さった
ボランティアさん

今年の五月に新型コロナウイルスの感染が5類となりました。これまでにいろいろ制限をさせていただいたことが少しづつ戻ってきました。そんな中、つくしの家にはこの夏、サマーショートボランティアとして中学生と高校生の生徒さん二人が、子ども達と活動をして下さいました。暑かった夏、素敵な思い出ができました。感想をいただきましたので紹介させていただきます。

『笑顔で過ごすこと』

清流館高校一年 高須遥菜



私は、笑顔で働くことの大切さを知ることができました。初めは、園児さんとの関わり方が不安で緊張もありましたが、子ども達の元気な笑顔を見たり、笑顔ではなしかけてきてくれることにより私もすぐに笑顔になり、嬉しくなりました。いつても明るく過ごし、元気に名前を呼んでたくさんほめてあげること意識しました。4日間、担当の子は変わり、みんなとても個性があつて、私

をみつけ、目標に向かって努力でき、笑顔をとくさん作れたり、たくさんほめることもでき、コミュニケーションなどを学ぶことができました。今回のつくしの家でのボランティアを通して、自分の将来にいかせるようにします

『ボランティアに参加して』

御前崎中学校二年 山崎心愛



サマーショートボランティアの活動、最初はすっごく緊張したけれど、つくしの家の方たちが優しく迎え入れてくれて、つくしの子たちも私のことをすぐに受け入れてくれて、すぐに馴染めました。つくしの子たちはみんな元気いっぱいでした。疲れることもたくさんあったけれど、何とかやりきりました。朝早く起きるのが苦手で、行く時は眠いなど思っていたけれど、行ったら急に目が覚め、元気に子ども達と遊んでました。4日間があつという間でしたが、すごく楽しかったです。欲を言うなら学校休んでここにきてみんなと活動したいと思つてます。また来年もサマーショートボランティアがあつて、余裕があればまた参加したいです。本当に楽しい4日間でした。つくしの家で過ごせて良かったです。本当にありがとうございました。

最近こんな感じですよ

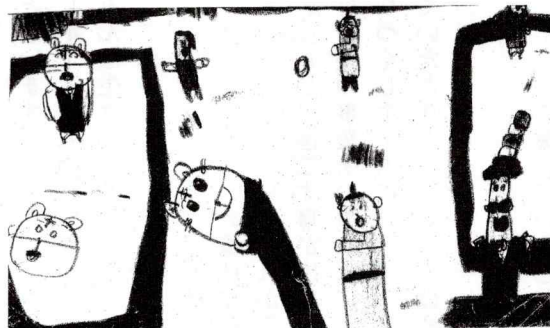
堂園亜希

娘の美咲は、つくしホームに通い始めて6年目を迎え、もうすぐ24歳になります。3歳の時に自閉症と診断されました。会話はできませんが要求を言葉で伝える事はできます。

昔から睡眠が不安定で夜中に起きてしまったり、明け方やと眠るの現在では入眠剤を時々服用してありますが、効かない時もあり、ホームでよく昼寝をしています。ここ数年は更に大変になり、寝転がったまま長時間動かなくなる状態が続いています。夕食後にそうなることが多いです。成長期におけるカタトニアというのだと医師から聞きました。力づくで移動させたこともありましたが、身体が大きいのでヘトヘトになりました。なかなか次に進めず時間がかかるので忙しい時にはイライラしてしまいます。

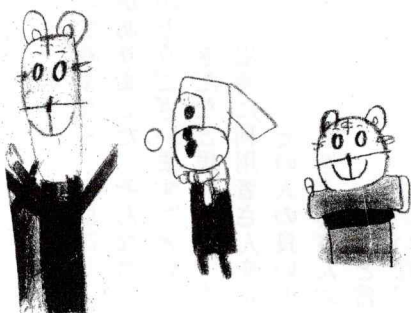
最近目は閉じ、険しい顔をしながら固まっています。これは起きている状態で数秒ですが1日に何回もなります。このような症状はいずれ治まるかもしれませんが、長い付き合いになりそうです。

こんな日常ですが、美咲の描く絵や歌に癒されています。一人っ子な



絵：美咲

のでつい甘やかしてしまいましたが、いつかは入所する日が訪れます。その時までには子離れができるよう自分も成長していきたいです。そして体重増加と脱走に気を付け美咲と健康に過ごしたいと思つています。いつもお世話になつていらっしゃる先生方には感謝の気持ちでいっぱい입니다。これからもよろしくお願ひします。
(つくしホーム保護者)



つくしホームのグループ紹介

【つばめグループ】

つばめグループは、9名の利用者さんと4名の職員で作業グループとして活動しています。今年度の主な内容は、小さく丸めたいろいろな色の花紙をたくさん作り、それを使って絵や文字を作っています。この作業を「ちねちね」と名付けて「今日ちねちねを作ろう」と声をかけて作業を始めます。一人でできる人、職員と一緒に進める人もいます。みんなので一つの作品を作り上げると、にっこり笑い、完成を喜びます。壁に飾ると、「すごいね。きれいだね」とみんなに声をかけてもらいました。その言葉に励まされ、張り切った作品作りに励んでいます。

ちねちね作りだけでなく、こいのぼり、コースターも作ったり時々散歩にも出かけます。これからも季節感ある物づくりやフラワーアレンジメントにも挑戦したいと思っています。そしてちねちねも続けながらいつぱい作品を作って飾り、みんなが楽しめる活動を目指しています。

(主任支援員

長野 悦子)



【せせらぎグループ】

せせらぎグループは、主に散歩に出かけています。近年ボランティアさんや職員も減り、コロナの流行もあって1人10分位の散歩です。ぜひ散歩介助のお手伝いに来て下さい。



室内ではバランスボールでストレッチをしたり、柔らかいボールやお手玉で職員や友達とキャッチボールをしています。

天候の悪い日にはミニハードルや足ふみボードで足腰を鍛え、腹筋&背筋マシンで筋力や柔軟性を養い、音楽を流してリラクゼーションなども行っています。数年前より「公園に行こう」と題して、近くの公園まで車で出かけてたくさん散歩したり遊具を使って体を動かしたり、シャボン玉やゲームも体もリフレッシュでき、皆笑顔になります。これからも楽しみながら身体をいつぱい動かして元気に過ごします。



(支援員 中山 成子)

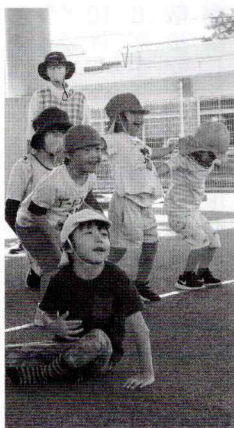
ご挨拶

今年の夏は本当に暑い日が続きました。数年前までは三十度以上の日をあらわす「真夏日」という言葉が聞かれましたが、今年は三十五度を超す「猛暑日」という言葉が毎日のように聞こえてきました。また、続けて接近・上陸した台風による暴風雨や洪水、竜巻などにより飛行機や交通、電気も止まり、日常の生活はもろろんですが観光やお盆の帰省にも大きな影響が出ました。被害にあわれた皆様には心よりお見舞い申し上げますと共に一日も早い復旧がされることを願っています。

気がつけば、今年もあと一ヶ月を残すのみとなりました。五月の連休明けから新型コロナウイルスの感染症法の位置づけが5類に引き下げられました。この間ずっと続けてきたマスクの着用、手指の消毒、人との距離、行事やイベント、旅行などの制限もなくなってきました。以前の状況に戻っていくことはうれしいことですが、感染が収束した訳ではありませんし、インフルエンザなどの別の感染症も季節を問わず流行していると聞きます。つくしの家やつくしホームには、感染に弱い方も通っているのです、もう少しみんなが気をつけながら過ごしていきたいと思えます。寒くなってきましたので、皆様も体調には充分気をつけてお過

ごし下さい。

法人内の施設では、牧之原市から指定管理で運営している「あおぞら保育園」が指定管理期間の十年間が今年度末で終了となり、令和六年度からの民営化に向けて審査を受けています。また「つくしの家」「つくしホーム」「こづつみ作業所」も現在四期目の指定管理の指定を受けて運営しています。来年度からの五期目の更新審査を現在受けているところです。それぞれの施設を利用する誰もが一人の人間として尊重され、生き生きとした毎日を過ごし、地域の中で長く暮らしていけるように、みんなで心を合わせて歩んでいきたいと思えます。



後援会の皆様方をはじめ、ここを応援して下さい方には、今後とも変わらぬご支援をお願いしご挨拶とさせていただきます。

取扱金融機関のご案内

三菱UFJ銀行静岡支店
普通 4254072
口座名 つくしの家後援会
(以下同じ)
静岡銀行相良支店
普通 145949
島田掛川信用金庫相良支店
(旧島田信用金庫) 普通 134511

郵便振替
00820-5-57983
口座名 心身障害児通園施設
つくしの家後援会

つばし

◆つくしの家のあゆみ

五月 ◎小さな頃つくしに通い、現在は東京にお住まいの占部昌広さんが来園して下さいました。こぐま教室のお手伝いもしてくれました。◎こぐま教室に山村一恵先生が来てくれています。

六月 ◎五日間の希望参観会を行いました。◎市内の就労支援事業所で働いている卒園児の杉本優弥くんが今年もお給料から子ども達にお菓子をプレゼントして下さいました。◎読み聞かせグループ「グーチョキパ」さんが大型絵本や紙芝居、指人形を見せてくれました。◎吉田町立こども発達支援事業所の先生三人が研修に来て下さいました。◎今年度も美容師の加藤さんがボランティアで子ども達の髪をカットしに来て下さっています。

七月 ◎保護者学習会で在園中の結愛さん（高校三年）のお母さんを囲んで、ステキなお話をたくさん伺うことができました。◎今月からこぐま教室に福島瞳先生が来てくれています。◎消防署と市の女性消防隊の皆さんが来て下さり「花火教室」を行いました。◎絹村真央先生が入籍され武田さんになりました。おめでとうございます。

八月 ◎いつも園庭の草刈りをして

下さる市内の稲本様が、暑い中作業をして下さいました。◎サマーショートボランティアで清流館高校の高須さん、御前崎中学校の山崎さんが来てくれました。今回、感想を四ページに載せさせて下さいました。個人ボランティアで日本福祉大二年の長野さん、相良高校二年の鈴木さんと稲本さん、牧之原中学一年の青嶋春希くんが来てくれました。◎星いきき社会福祉財団様より木製二人乗りブランコをいただきました。

九月 ◎おたのしみ会、盆踊りをみんなで踊り、ホールではヨーヨー釣りやゲーム、西館では「わくわくランド」などを楽しみました。◎新しいお友達、山田サイオンくんが入園しました。◎読み聞かせグループ「گرانマ」さんが大型絵本を見せてくれました。

十月 ◎つくし東館前の駐車場の工事、でこぼこしている箇所を補修しました。◎ちいさな運動会を津波タワー下の人工芝広場で行いました。

相良高校の生徒さん五名がボランティアに来てくれました。旧職員の小栗先生も応援に来てくれました。◎県の福祉大会で横山睦季先生が表彰となりました。◎パチンコ店パオ牧之原店様がお菓子を届けて下さった、たくさん皆さんの皆さんがアルミ缶を届けて

下さいました。感謝です。



絵：ゆうり

◆つくしホームから

5月 ☆民生委員さん達と散歩交流。日差しは強めでしたが、風が心地よかったです。☆保護者の皆さんが敷地内の草刈りをして下さいました。☆嘱託医の廣瀬先生の巡回相談。今年度から嘱託医になっていただきました。よろしく願います。

6月 ☆吉田特支高等部3年生と、静岡こども福祉専門学校2年生それぞれ1名ずつ実習。☆民生委員さん達と散歩交流。いろいろなお話をしながら街を歩きました。

7月 ☆七夕の会は皆で願いを描いた七夕飾り、保護者の方々からいただいたお供え物を囲んで、ゲームを楽しみました。☆夏祭りは、ゲームで獲得したお菓子が満足、ダンスで身体をいっぱい動かして楽しい時を過ごしました。掛川特支御前崎分校高等部3年生1名実習。☆プールを今年7月と8月に少人数で4回に分けて行いました。

8月 ☆第2こづつみ作業所の小泉さんが手作りのゴミ袋とビニール袋を寄付して下さいました。今回だけでなく定期的に届けてくれています。ありがとうございます。☆老朽化した自動火災報知設備を牧之原市により交換していただきました。

9月 ☆防災訓練では非常食のチェックや災害について学びました。☆星いきき社会福祉財団様よりトランシーバーを4台助成していただ

きました。☆職員で普通救命講習を受講。いざという時に備えたいと思います。☆食事は出前注文。自分の好きなものを頼み、皆満足でした。☆吉田特支高等部3年生1名実習。☆民生委員さんと3回目の散歩交流。☆地区のお祭りで福岡区のお獅子が来てくれました。その迫力にびっくりでしたが、素敵な体験となりました。☆民生委員さんたちが草刈りをして下さいました。☆牧之原市より浄化槽ポンプを交換修理していただきました。

編集後記

受話器の向こう側から、「今回もミカンジュースを送りまね」という優しい声が聞こえます。つくしの家後援会の東京都にお住いの方から、数十年前から温かいお言葉を添えて、ジュースが届きます。季節を問わず、つくしの事を気遣って下さるお言葉に、心より感謝しています。寒い季節を迎えますが、皆様のご愛をお祈りいたします。

10月 ☆掛川特支御前崎分校高等部3年生1名実習。☆民生委員さんと散歩交流。今年度も4回行う事が出来ました。☆利用者さんと職員のみで運動会を行いました。仮装やパン食い競争、踊りを楽しみ、特製弁当を食べました。翌週行ったお楽しみ会では、射的ゲームで景品をとり、皆でにぎやかに過ごしました。